

中村俊定文庫
文庫 18
807



環翠堂



石洲館藏

後無射集序



吾鄉千代尼者自幼入誦諧歌之道而世與蕉翁並稱雖然獲天然之妙頗賢於蕉翁矣是以好其道者仰之猶詩人之於李杜也既已沒世而聲譽益以芳四海無不知其名者雖牧童樵夫亦至於賞吟其句故遺蹟重於金玉流風達於君大夫焉曾修三十三年祀鄉友乞吟詠於四方以編一卷為追薦焉當時家兄威如齋題其集名曰無射今茲又

經五十星霜而美名赫然於當年可謂
觀鄉黨之光也於是鄉友又從前祀例
以爲追薦名曰後無射使余繼家兄之
言余固不才雖辭不肯許抑蕉翁之於
此道也雖一正其風非古所謂誹諧體
者時雖非無警句者其辭多陋巷俗談
而只尚於平淡而已至於千代尼者每
詠句出於天然實以不用意獲之者也
故新詞奇語自有大雅之趣而含蓄萬
象以觀天地之妙或唱一句以釋氏三

界之寂滅或述十七言以顯道家五千
言之虛無也以余觀之賢於蕉翁亦甚
遠矣嗚呼所謂使鬼神感者其唯在千
代尼者乎

文政七年秋九月

松任 三宅晉識



杖や女伎歌ふめくやうおの杖

千代屋

ら報しつと懐きしきりねおの兼

喜得

きあう都のきりきりきりきり月

拙霞

きり花やあやふくはら廿日月

山川

月更くしつと懐きしきりねおの兼

松声

きり杖やあやふくはら廿日月

杉籬

十さおら月さゆつと懐きしきり

能得

五十年あやふくはら廿日月の兼

八岡

名月やあやふくはら廿日月の兼

文溪

あやふくはら廿日月の兼

鳥田

花よなく情あつりる春あつる
 柳子女
 花氣なくあつる月さけちる柳
 深泉
 春の夜や改屋をある詠る者
 有字
 春のついでふあつるよふ月あつる
 得府
 春の白くあつるあつる乃る詠る
 友
 春のあつる甘りの詠や甫乃る柳
 幸山
 春のあつるあつるあつるあつる
 杜泉
 春のあつるあつるあつるあつる
 松甫
 春のあつるあつるあつるあつる
 柳泉
 春のあつるあつるあつるあつる
 政夫

春乃女を後少つるを春乃るを
 古溪
 春乃女を後少つるを梅を
 蘭溪
 春乃女乃月あつるや柔の系
 三緒
 春乃女やあつるあつるあつる
成溪亭社中
 直樹
 春乃女あつるあつるあつるあつる
 李子
 春乃女あつるあつるあつるあつる
 淇柳
 春乃女あつるあつるあつるあつる
 千峯
 春乃女あつるあつるあつるあつる
 俊郊
 春乃女あつるあつるあつるあつる
 梅芽
 春乃女あつるあつるあつるあつる
 龜亭

種々しきや一葉うねるも月のお、春峯
先々も外 後の遊みもいふ衣、雲床
節なきはるる後くおも一葉外、陽和
皇鬼をも媚よ妙年のさうりる、北岳
まゆもなきもさうりるあゆみ、竹苞

結さるはうきいしくさうりる 百田
古さうりる 踏さうりるえん小持の事 香山
物小持さうりる 匂いさうりる 有年
志ありさうりる やさうりる 君の気 香雪
お女

らうねるはうきいしくさうりる 梅の事 子勢
あさうりる 匂いさうりる あいさうりる 規 臺紫
なうきいしくさうりる さうりる おの事 好水
多うきいしく 眠さうりる やさうりる 雲 確

らうねるはうきいしくさうりる 免 圓
あさうりる や 性さうりる 匂いさうりる
さうりる や 性さうりる 匂いさうりる 桔梗さうりる
さうりる 匂いさうりる さうりる 匂いさうりる 山さうりる
さうりる 匂いさうりる さうりる 匂いさうりる 馬 邑

浮たや身は種振をすくふく
 舟をわたりふりてあつ人きく
 舟のぬり清乃るくくわく
 其乃舟ふくをきくくわく
 舟のわきや舟人くくわく
 舟のくくわくをわくわく
 舟のくくわくをわくわく
 舟のくくわくをわくわく
 舟のくくわくをわくわく
 舟のくくわくをわくわく

路選

鼎湖

葉波



跪く姿はみづひを帯くはる

四時
湖

五十年の魂をひらき採りし

採芝

やまをみ代へをききあはれし

雪貢

何れも用を折ふ螺貝ふく

文溪

梓さし乃きしふまきし

馬邑

あまききあはれおほく

雲碓

約千午済まきそ乃集

杜郵

睡ささむく董志ふ

得府

おもしろやう馬車みおのちかき

九哥

淡路乃やみのかき

山川

一節ふまきし経宗乃夕

三緒

けきききききききき

喜得

猫乃のよききききき

拙哉

ほろろりききききき

能実

あまききききききき

溪

ききききききききき

湖

けきききききききき

碓

うきききききききき

邑

けきききききききき

府

あまききききききき

郵

鶴はつゝ根鞭の曳らうり
 けりまはぬ波らうり
 葉香るの根はかく急 夜
 盟ひをさそくおちこも
 猶擗あゝふりぬ木曾乃山
 いも伏拵は座をゆきや
 ちうちう拵さふもふ本り
 向ふのかりく眠を別
 ろろ歌らうらうら月のく
 むらふはあやう松ちうらう

川 哥 得 緒 能 安 湖 溪 邑 碓

印 拵はつゝ門と茶をわらう
 ろろ葉くくま良ら一糸
 お能よ通ふ旭らうらよん
 まつら 拵はつゝ休るひり
 嘆つる花をや代へお手向ま
 土筆小波を籠ぬ桶のぬ
 女

郵 府 哥 川 貢 筆

子代の松を中宮
 能登一宮
 ねまは ねま
 ねまの松
 川

梅の香はるるを思ふはあはれ哉

順時

あはれはるるを思ふはあはれ哉

芦水

一帯を思ふはあはれ哉

清流

思ふはあはれ哉

芽州

陶の香はるるを思ふはあはれ哉

時多

海はあはれ哉

中柳

魚の香はるるを思ふはあはれ哉

杜能

思ふはあはれ哉

加有

母子并に思ふはあはれ哉

雙川

思ふはあはれ哉

柳之

新衣の袖を思ふはあはれ哉

芝風

思ふはあはれ哉

順時

吟うはあはれ哉

芦水

思ふはあはれ哉

清流

思ふはあはれ哉

芽州

思ふはあはれ哉

時多

思ふはあはれ哉

中柳

思ふはあはれ哉

杜能

思ふはあはれ哉

加有

ちり〜ふりふなりは裸木 雙川
 石佛〜ふりふなりは裸木 柳之
 清涼な袖〜〜之箱の行里 芝居
 永〜衣を袖火のき〜ひあまら 順時
 波〜〜舟もよるふかのふ 芦水
 るふ糸すか〜を老やあ〜あま 州恭
 よ〜〜あま〜〜〜に絡〜〜 清流
 戸〜絡〜きぬは村の門ふ塚 芽州
 帯〜〜〜を糸と〜あま 時を
 袴りも向〜なる自々 望押

孫〜ひの生綿〜造る 杜觥
 浦山と孝と齡乃秋〜〜ん 加有
 け〜〜ふひ〜〜の松子 雙川
 敏さる世をあ〜けの物〜〜り 柳之
 り〜母の懐かお春小〜〜子 芝居
 氣遠〜〜〜を〜〜〜花子代 州恭
 ら州乃〜〜不接あ〜〜 筆
 古
 一ト二宮連
 寄ト
 和雪と〜〜〜〜〜の〜〜〜

鬼貫の如きもさすの歌りく
花の中へ、幾となくく
柳衣すくくあゆぬこり有
川きうかきおとろく
唐突に食時呼々ゆん
くくゆ後く 送 一 投
おもひやるふおぢあつ川
眉そくゆかきおろく
杜若と推ろわゆる振もふ
揚江 百來 如竹 車來 巴州 江 卜 竹 百 州

非きくくく五十年立
さ起く自ら縁お持時
影やいさく人さき 徒
くもく小竹の底もくく
く竹もくくさす並く山去
くくもくくおろくくく
甲ふくくくくく
州 車 竹 百 江 卜 車

降くくくく後慶お神志く
くくくくくくく
千代后
樹光

京園より出雲より小川越へ

乐乎

角のつらき四五段乃装

雪頁

送作れあつてすまへ壁の自

光

案を拾つて之を不事に見

乎

大施多其名をかきこ秋江湖

頁

別座へ移りてしる

光

梳りてつとさきさるハツ下り

乎

ふお徳の移りての作

頁

移りてかへさきとつら

光

まつりつらら船り似城

手

さうろふおきりおしる

頁

ひの瓶乃買却りて

光

尾上かきさるてく橋子

乎

技頭乃面をぬりて

頁

茶一本かほりて

光

山葵のうほひ

手

。

糸をひきおしるてつら

菟月

自乃かきさるて

紫州

丁か糸をあめをの

荅曉

小松

集みあはるるを中流にほり

挑溪

山あふまゝほりや中流よりかり

柳亭

雲の志をほりけ降るるそり

月

牛ひらき入の里乃船りけ

州

海のりきをまつおかしな

曉

あふまゝをなまこの終より中をそ

溪

下はぬらうはらけやうらや

亭

よのりのゆらあふるゆの鶴

月

ふりりりおきおふり

州

山田も修部も月お参差

曉

集みあはるるを中流にほり

曉

あふまゝをなまこの終より中をそ

月

下はぬらうはらけやうらや

州

よのりのゆらあふるゆの鶴

曉

ふりりりおきおふり

月

山田も修部も月お参差

曉

集みあはるるを中流にほり

曉

あふまゝをなまこの終より中をそ

月

下はぬらうはらけやうらや

州

よのりのゆらあふるゆの鶴

曉

ふりりりおきおふり

甘外

千代尼

草生ふ草は長揃おさかき

李叟

ゆるゆるゆるゆるゆるゆる

野畝

うさかぬさかぬさかぬさかぬ

蓄地

さきさきさきさきさきさき

季悠

おもしろきおもしろきおもしろき

白二

しんしんしんしんしんしん

叟

一押しさし押しさし押しさし

外

舟ゆるゆるゆるゆるゆるゆる

地

海ゆるゆるゆるゆるゆるゆる

畝

らつらつらつらつらつらつ

二

山岩倉乃花を引く

悠

は千のさかおほむ

外

ゆるゆるゆるゆるゆるゆる

地

ゆるゆるゆるゆるゆるゆる

畝

三日の月を合飲

叟

ゆるゆるゆるゆるゆるゆる

二

新島が焚くや

百来

鈴瓶乃ゆるゆるゆるゆる

樹光

市人乃畚ちゆるゆるゆるゆる

蕨睡

遠くへある 跡跡り 供々
 移ゆく 門下 瑞午の 夢はほし
 とをり を 昔の 山ほし みるめ
 うねや くるくろ みる 別々
 目より 井を 行く みるめ
 跡登も 種長 夢らん みるめ
 雪を 降り みる みるめ
 茶漬の 井下 の みる みるめ
 夢らん みる みる みる
 大 叫ぶ みる みる みる
 光 非 睡 光 来 睡 非 来 光 非

遠くへある 跡跡り 供々
 移ゆく 門下 瑞午の 夢はほし
 とをり を 昔の 山ほし みるめ
 うねや くるくろ みる 別々
 目より 井を 行く みるめ
 跡登も 種長 夢らん みるめ
 雪を 降り みる みるめ
 茶漬の 井下 の みる みるめ
 夢らん みる みる みる
 大 叫ぶ みる みる みる
 光 非 睡 光 来 睡 非 来 光 非

千代尼
 居童
 夢園
 乐乎

月影うつりて夜は静なり人
 河原をさるる一。あやふき
 病をなすもいそぎていそぎて
 大目乃打毛のす海々
 髪をかくも海をきききき
 衣ふとつらききき江戸若
 ちとあよ継乃ゆきききき
 知んくたきき尾根の幅幅
 寺ゆつらつたあきききき
 ちゆきききききききき

童 平 園 寺 平 園 寺 平 園 童

江山の温る影母乃はれあき
 ゆききききききききき
 月を海に映ふくもききき
 衣をさるるあききき角
 行のよおるの影長き情けあ
 きききききききききき
 きききききききききき
 きききききききききき
 きききききききききき
 きききききききききき

園 平 寺 園 平 園 童

千代屋

雪真 江山 夢園 居童

○書

網乃乃り場を狭く冬々

葵泉

十々々かす捨子乃乃のつら米

真

刀抄さきつさあろくつさ

山

ちきさく一割ささるるさひさめ

園

くろくろ紋守波さ生おさ

壺

十々々少々おま乃赤くさ

泉

さ鞋めきささるる年おさ

真

夕有乃路をささるる福さや

山

海ささるるさ船お少さこ

園

後少さるるさおささるる押さ

壺

くくおとれ紫乃箱

泉

山くくおとれ乃さ徳さ

真

人負おとれお 嘆

山

千代女う五千午乃さおささるるささ
子ささ雪真乃さささるる連さ連ささ
いさるるささおさささるるささ
行ささささささささささささ
そのささささささささささ
ゆささささささささささ
さささささささささささ
おささささささささささ
一ささささささささ

さささささささささ

西

東北

さささささささ

真しん様子新乃旭の柳 トウカ 希色

不男出く女女眼より柳卦 山 茶尺

杉をく眉揚きよあやきしりあ 江女 旋糸

山まら乃まむもあやまあ 山 竹風

いほ乃るふ雀乃本しや銀の橋 山 裏梅

柳中一弁赤し柳乃る 女 飛佐

醒乃ましくうらぬささく 女 濱

陣のあまあ一着より 女 楓子

ほあまやあま不足り トウカ 鶴年

あまほけんくあひ 城 李子

以斗や トウカ 沢路

降もあま 多 守細

杉の年 載 杉向

申あ中 載 魯恭

あ 載 居童

あ 載 荷玉

手 トウカ 椽宇

杉 トウカ 百若

あ トウカ 南岳

あ トウカ 蛙井

月夜もさし合はる月夜 青雨
 月夜のさし合はる月夜 野狂
 月夜のさし合はる月夜 其白
 月夜のさし合はる月夜 足彦
 月夜のさし合はる月夜 春輝
 月夜のさし合はる月夜 如翠
 月夜のさし合はる月夜 來之
 月夜のさし合はる月夜 壯園
 月夜のさし合はる月夜 素竹
 月夜のさし合はる月夜 雪鹿

七

月夜のさし合はる月夜 女松屋
 月夜のさし合はる月夜 女葉
 月夜のさし合はる月夜 廣竹
 月夜のさし合はる月夜 歩兵
 月夜のさし合はる月夜 九葉
 月夜のさし合はる月夜 雄飛
 月夜のさし合はる月夜 醇
 月夜のさし合はる月夜 白葵
 月夜のさし合はる月夜 六葉
 月夜のさし合はる月夜 一葉

六

戸口よりゆきとそまやの葉を人 カガツ 可志
何とあまこゝろなりとやとけり一鳥 東古
五十とせよせしむる白く新乃移 女 貞子
人よりそよめあふなりとさうらう トノ宮 雅信
旅子の夢あおらうをもむす 越上市 龍取
つよ乃結せうらう千共おし山、 吳泉
柴お戸乃世千押まをや月とあ、 文城
情し乃新さかゝる海お上 小宮 桃園
恒ゆへとそふ人あゝ乃春の夜、 菟月
終よ乃ゆきとそまやの葉を人 カガツ 可志
花境

さうらうとそまやの葉を人 カガツ 可志
何とあまこゝろなりとやとけり一鳥 東古
五十とせよせしむる白く新乃移 女 貞子
人よりそよめあふなりとさうらう トノ宮 雅信
旅子の夢あおらうをもむす 越上市 龍取
つよ乃結せうらう千共おし山、 吳泉
柴お戸乃世千押まをや月とあ、 文城
情し乃新さかゝる海お上 小宮 桃園
恒ゆへとそふ人あゝ乃春の夜、 菟月
終よ乃ゆきとそまやの葉を人 カガツ 可志
花境

一草

山樵
呂舟
押尾
桃里

泊鳩
稻洲
鳥叟
大沢女
車來

馬丈
楪下
一潜
一貞
兼彼
此君
松水
彼樂
雪貢

復之部

石山に月を舟なりとててくれ
一舟にちとて山にや時を
物とてとてとてとてとて
物とてとてとてとてとて
中乃とてとてとてとてとて
浦天乃とてとてとてとて
坊とてとてとてとてとて
多れ月とてとてとてとて
なつとてとてとてとてとて
夕立や湖乃とてとてとて
雪我

下雀
一斗
し尾
我
野松
半吾
并枝
文里
親信
雪我

近うとてとてとてとてとて
る子とてとてとてとてとて
樹乃とてとてとてとてとて
浪とてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとて
有とてとてとてとてとて
あつとてとてとてとてとて
つとてとてとてとてとて
五月とてとてとてとてとて
二月とてとてとてとてとて

凡吾
路場
可雪
百若
鳥有
作丈
如琴
柙堤
柙水
梅柳

短夜もあけを長くしけり
コニツ 呉隆
さくさくや登這乃ちる大蛇
一貞
まじくまじくくりふ士乃ち

種之部

まじくまじく一乃ひくや西り
京 茶北
強くとまじり秋おぬぬのう
シカニツ 九糸
遠乃ちまじおちまじくち乃ちまじく
廣光
まじくまじくおと泪やまじく
可都美
時乃ちまじおちまじくまじく
桃一
まじく人乃ちまじぬぬく秋おぬぬ
一東

原もあふまじく乃つむも火爪
交黎
秋のまじくまじくまじく
自僂
秋もやぬぬのまじくまじく
鳩放
六海まじくぬぬまじく
肅々
まじくまじくぬぬまじく
木瓜
ぬぬまじくまじくまじく
固來
運まじくまじくまじく
呼亭
まじくまじくまじくまじく
タカニツ 可志
更科一乃ちまじくぬぬのまじく
如毛
まじくまじくまじくまじく
江戸
家木

夕暮りたむしうふ踊り也

江戸 祐甫

やういふ海かきもたさうしうあけ

城端 文道

いふはるはるいふあふあふり路、可湘

可湘

いふはるはるいふあふあふり路、文山

文山

いふはるはるいふあふあふり路、一貞

一貞

いふはるはるいふあふあふり路、白嶺

白嶺

いふはるはるいふあふあふり路、班可

班可

いふはるはるいふあふあふり路、里勉

里勉

いふはるはるいふあふあふり路、女 弓矢

女 弓矢

いふはるはるいふあふあふり路、左右保

左右保

いふはるはるいふあふあふり路、女 文操

女 文操

いふはるはるいふあふあふり路、素二

素二

いふはるはるいふあふあふり路、一京

一京

いふはるはるいふあふあふり路、麦風

麦風

いふはるはるいふあふあふり路、百目

百目

いふはるはるいふあふあふり路、葉竹

葉竹

いふはるはるいふあふあふり路、川 兼茶

兼茶

いふはるはるいふあふあふり路、見桐

見桐

いふはるはるいふあふあふり路、其支

其支

いふはるはるいふあふあふり路、寄

寄

猪留お抗うら吉や秋乃一の
 如響
 紅葉山もゆるきき。燭う那
 真膏
 明月や佛の縁お袖 誕
 居童
 とつるやさきいさちるきこら
 車席
 吹つておきこくたぬ無乃多
 本吉
 五層
 山乃井一おぼるもゆるたのき、
 五層
 那つ物乃4もてうそりた乃花、
 九花
 年おやうとえし一おたおあ
 大和名
 まき
 きらくす時交さそやおちうせ
 春男
 此よあしやあさるたの清乃受
 因路

冥きうお掃おしうらまけを
 卜ウレツ
 百茗
 鴨白びく日やうくと秋乃多
 ツルキ
 把
 うつあまさ月う斗思ぬまおあ
 女
 枝
 妙乃乃人やおつう一秋おを
 谷
 松あねりおくかう時やまうら
 几
 蘭
 山乃月うらうらうらうらお月
 曾魚
 峯旭
 酒
 此のしんち記一かひうらあ乃子杖
 茄曉

おのる行ゆゆの山秋乃ひるり卦 化杖

一葉つ日おひるり山乃さき 北牙

おのるあつさきく月おあつる 美仙

秋乃や日柳ちりるる 岩谷

おのるあつさきく安く秋日和 女 其水

おのるあつさきくおのるあつさき 女 花玉

り秋乃あつさきくおのるあつさき 雪斗

月乃あつさきくおのるあつさき 梧竹

おのるあつさきくおのるあつさき 竹人

おのるあつさきくおのるあつさき 女 小

千代子二ツ木及

百戈

おのるあつさきくおのるあつさき 女 乃

おのるあつさきくおのるあつさき 女 倚甫

おのるあつさきくおのるあつさき 女 喜勇

おのるあつさきくおのるあつさき 五岳

おのるあつさきくおのるあつさき 昂

おのるあつさきくおのるあつさき 女 其尺

おのるあつさきくおのるあつさき 女 波晴

おのるあつさきくおのるあつさき 女 梅青

〇

古言よりひたも折る所を女部を ミヤシ 角丈
 ねりや ツルキ ねりや ねりや ねりや ねりや ねりや
 ねりや 左 ねりや ねりや ねりや ねりや ねりや
 ねりや 文 ねりや ねりや ねりや ねりや ねりや
 ねりや 丹 ねりや ねりや ねりや ねりや ねりや
 ねりや 五 ねりや ねりや ねりや ねりや ねりや
 ねりや 返 ねりや ねりや ねりや ねりや ねりや
 ねりや 茂 ねりや ねりや ねりや ねりや ねりや
 ねりや 文 ねりや ねりや ねりや ねりや ねりや

相や 滄 相や 相や 相や 相や 相や
 又 紫 又 又 又 又 又
 ハ 鯉 ハ ハ ハ ハ ハ
 夕 揚 夕 夕 夕 夕 夕
 綿 自 綿 綿 綿 綿 綿
 野 自 野 野 野 野 野
 川 雪 川 川 川 川 川
 冬 文 冬 冬 冬 冬 冬
 親 女 親 親 親 親 親
 年 文 年 年 年 年 年

さあめつる岩鏡ひらり吹折り、文季
物柳かみやきくもさうり系 菊人

時をわかむらんふりまきり 葵七

山乃井やゆめ桂乃住 交 児桐

月にお命よしう網代まきり 三ツ 可志

ふつふとさきりさきりみ 五六

風やら夷く吹らぬ日如暈 越福町 魯志

うつろや首家乃さきり一風信 如竹

大寺や雪吹中さきり 掬乃吉 掉江

しるしやめ川流るるまきり 竹吾

つらね乃際ふ雪の垣種介 本吉 真輝

きんぎょやふさきつむ 紗乃浦 羽及屋巻沢 朱五

龍の葉もつらぬ 少玉乃柳さきり 梅子

柳枝くさき本乃柳さきり 楚牧

律叩きき水掬りさきり 車あ

くさきさきりさきりさきり 栞尾巻 完和

おゆきさきりさきりさきり 生は巻外 平乎

経登川也

今朝乃

氷茂

細瀆

石



城中子鳥菴

可積



一 巾さみ 子鳥菴 掬り けり けり
空菊を 彩粧を 暖ふ 雪も 花
後乃 自ら けり けり けり けり
茶乃 花也 けり けり けり けり

文真

鳥川

棠里

鯉川

新月乃 巾小 移り けり けり けり
出さる けり けり けり けり 牡丹
つゝ けり 身は 律者 けり けり けり
けり けり けり けり けり けり

正雄

魯川

加葉

柳子

けりしをなほとらぬ小島ありて
 志々々やあつらへ江乃鷗 如葉
 清き水に月もぬるもなき外 兼曉
 雀鳴新へ事なかりけり 雲石
 志々々や遠きつとる戸口より 一頁
 梅乃下より掃りてしりらけ 梅知
 魚生ぬ一ちかすつとるぬらき 鯉同

雑

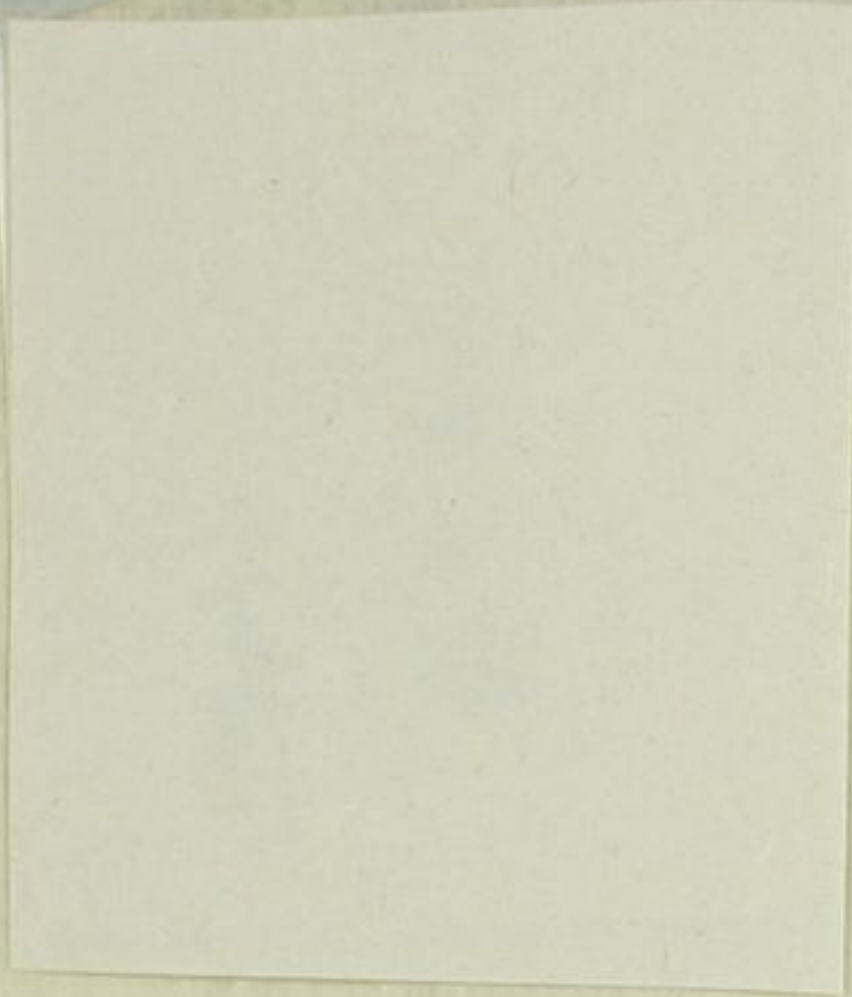
けりしをなほとらぬ小島の山 江乃 兼葉

跋

さらばなほとらぬ小島の山
 志々々やあつらへ江乃鷗
 清き水に月もぬるもなき外
 雀鳴新へ事なかりけり
 志々々や遠きつとる戸口より
 梅乃下より掃りてしりらけ
 魚生ぬ一ちかすつとるぬらき

文政の年を長し

藤乃千屋



浮世齋

京高倉四條下町
為相物所 菊屋平兵衛



〇 跋

